

## 資料一覧

No.	資料名	項目番号	ページ
1	教育GPパンフレット	1	1
2	インターンシップ協力企業・団体一覧	2 20	8
3	平成18～22年度 入学者選抜の状況	5 6 7 112	12
4	アドミッションポリシーの改正	5 6	16
5	平成18～22年度 科目等履修生受入状況	7 19	17
6	学部連携演習の実施状況	12	18
7	e-learningシステム(webtube)活用科目一覧	17 48	20
8	表彰にかかる諸規程	33	24
9	表彰の状況	33	31
10	新採用教員の採用時年齢構成	36	32
11	客員教授、特任教授名簿	38	33
12	高専・高看の閉校に伴う必要な施設改修について	46	34
13	メンター担当状況一覧	51	35
14	札幌市立大学授業料減額免除状況について	58	43
15	日本学生支援機構奨学金の利用状況について	58	44
16	サテライトキャンパス利用実績	75 84	45
17	コピー用紙購入量	124 152	46
18	外部委託等の実施状況	125	47
19	人材派遣の受け入れ状況	125	48
20	自己点検・評価の改善項目及び対応状況	140	49

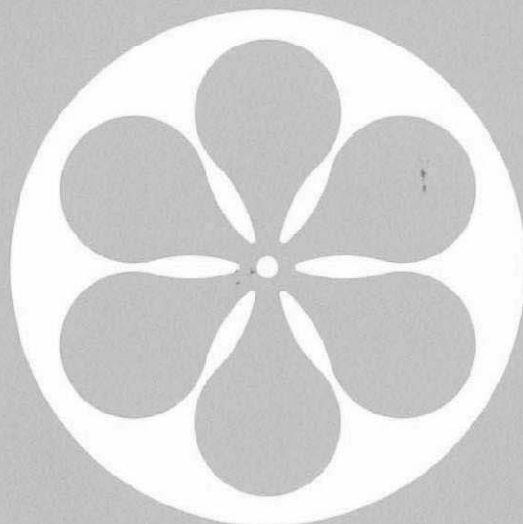


平成20－22年度

「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」採択事業

# 学年別OSCEの到達度評価と 教育法の検討

平成22年度版



公立大学法人 札幌市立大学

## オスキーとは

OSCEとは「Objective Structured Clinical Examination」の頭文字を取ったもので、「客観的臨床能力試験」と訳されます。ペーパーテストによる知識重視の教育ではなく、判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の習得を、適正に評価する方法として注目されています。本学の取組みでは看護学部4年間で学ぶ技術内容の到達度や評価基準を明確にし、認知・精神運動・情意領域を含む教育方法と客観的な評価方法のシステム化を目的としています。

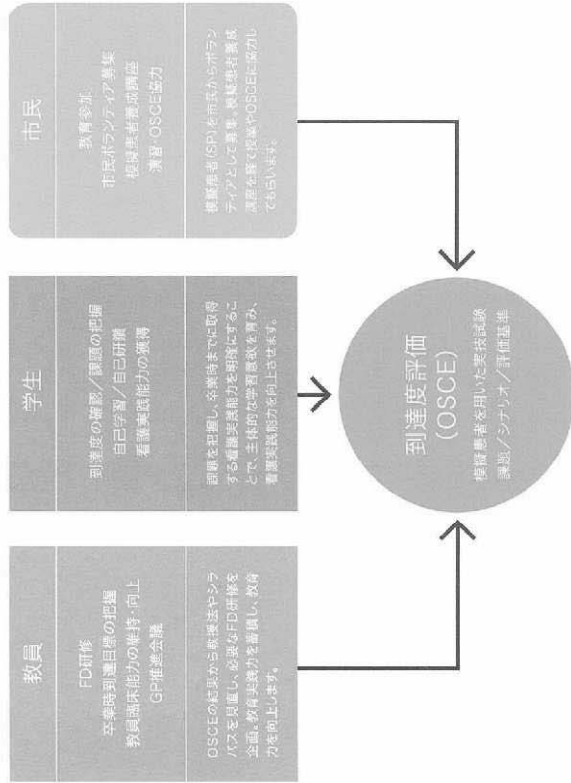
## 札幌市立大学の取組み

札幌市立大学は「市民に関わり、市民の力になる、市民が誇れる大学」を目指しており、OSCEにおいても市民と一緒にあって創りあげていく点が大きな特色となっています。

## 札幌市立大学で実施しているOSCE

札幌市立大学看護学部の教育目標は「的確な看護実践能力を有し、対人関係能力を備え、地域貢献できる人材育成」です。各専門領域（基礎・成人・母性・小児・老年・在宅・精神・地域看護学・看護管理）で学修した知識と技術の統合を図るために、OSCEを用いた看護実践の到達度評価を各学年末に実施しています。

## OSCE取組みの概念図

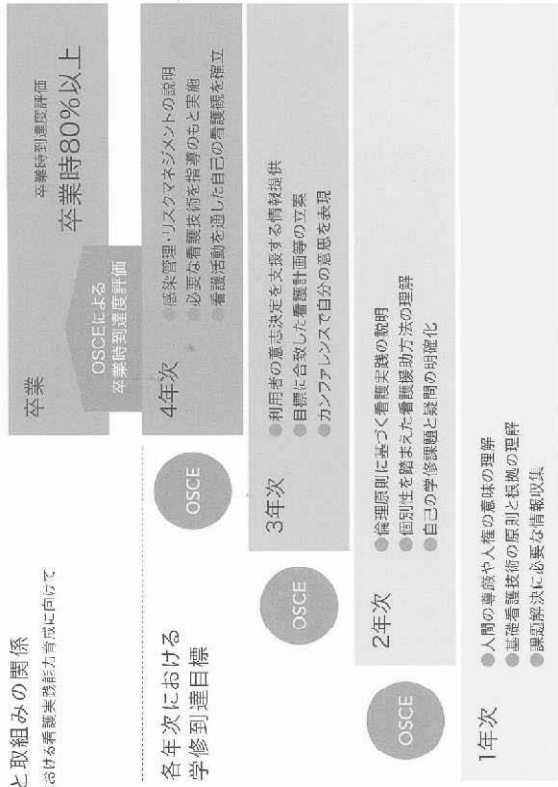


## 人材育成とOSCE

札幌市立大学では、「高度実践力を備えた人材育成、対人関係能力を備えた人材育成、地域貢献できる人材育成」の教育目標を達成の一環として、OSCEに取り組んでいます。

## 人材育成の目的と取組みの関係

札幌市立大学看護学部における看護実務能力育成に向けて



## 看護実践力と本学が目指す教育「育てるOSCE」

看護系大学の教育は専門を享受することが、全教員参加のもと推進していることに加え、看護実践力を育成することが大きな柱になっています。私たちの大学では看護学部全体で実践力育成のために「育てるOSCE」を掲げて取り組み、それが平成20年度の教育GPに採択されました。看護実践力は単独のデクニックを練習するだけでは獲得が難しいといわれる、看護としてのエビデンスに基づくアクセスメント、アクセスメントに基づく観察や看護の提供を一連のプロセスとして、限られた時間(7~12分程度)で実施し、模擬患者と教員からフィードバックを受ける看護実践テストです。このOSCE導入は学生の自己学習を促すツールであると共に、全教員参加のもと推進していることから、体系的な看護教員のFD(Faculty Development)活動に繋がりが、教員間のコミュニケーションも深まっているようです。市民の社会参加としての模擬患者養成も順調に進み、約30名の札幌市立大学模倣患者が活動しています。平成22年4月に第1期生が卒業し、多くの病院等へ就職しました。就職先の病院等からいただいている評価も高く、この取組みの成果と自負しています。今後は現場と連携しながら教育の検証を積み重ね、より良い教育法を検討してまいります。

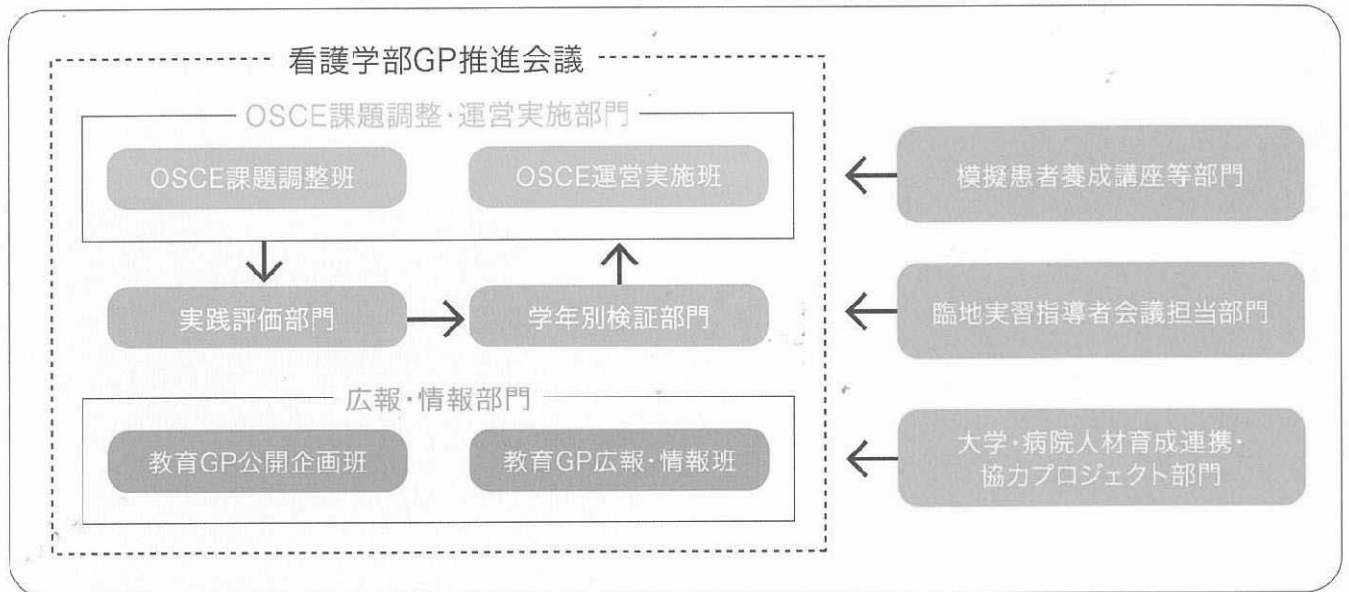


看護学部長・GP推進会議責任者  
中村 恵子  
KEIKO NAKAMURA

# 教育GP実施体制

札幌市立大学ではGPの推進に全学を挙げて取り組んでいます。「看護学部GP推進会議」が全体的な管理と統括評価を主として行い、各部門と連携しながらOSCEを実践。看護学部全教員が各部門のいずれかに属し、活動しています。

## 教育GP実施体制図



## Topics

2009年9月21日(月)

第19回日本看護学教育学会交流集会  
「看護学教育における  
学年別客観的臨床能力試験  
(OSCE)の取り組み」

2009年10月3日(土)

日本赤十字広島看護大学 FD研修会  
「札幌市立大学におけるOSCE  
の実施体制の現状と課題  
～育てるOSCEの取り組み」

2009年11月14日(土)～15日(日)

第34回医学教育セミナーと  
ワークショップin札幌  
W-3「看護学教育における  
OSCEの取り組みと  
模擬患者養成」

2009年11月28日(土)

第29回日本看護科学学会  
「看護系大学における学年別  
OSCEの取り組み ～3年次  
課題の評価項目と看護実践  
能力項目・到達目標の分析～」

2009年12月4日(金)

京都府立医科大学付属病院看護師・  
大学看護学科教員に対する講演会  
「札幌市立大学における  
OSCE ～育てるOSCEの  
取り組み～ 課題調整・  
運営実施を焦点に」

2009年12月5日(土)

日本看護学校協議会北海道ブロック研修会  
「看護実践能力を高める  
教育方法・教育効果  
～学年別OSCEの取り組み  
を通して～」

2010年2月9日(火)

日本赤十字広島看護大学 FD研修会  
「OSCEにおけるシナリオ  
作成と模擬患者の養成」

2010年2月16日(火)

天徳大学助産学大学院生・教員への講義  
「市立大学における育てる  
OSCEの取り組み」

## OSCE実施の流れ

OSCEは受験生(学生)1名に対し、評価者(教員)2名、市民による模擬患者(SP)1名がユニットとなって実施されます。受験生は以下のような流れでシナリオによる実技試験を受けます。

### 1 | 待機・課題読み

受験生は時間内に課題を読み、  
内容を把握します

1分



### 2 | 実施

模擬患者に対して課題を  
時間内に実施します

7分



### 3 | フィードバック

模擬患者と2名の評価者より  
フィードバックを受けます

3分30秒



### 4 | 移動

次のステーションに移動し、  
次の課題に備えます

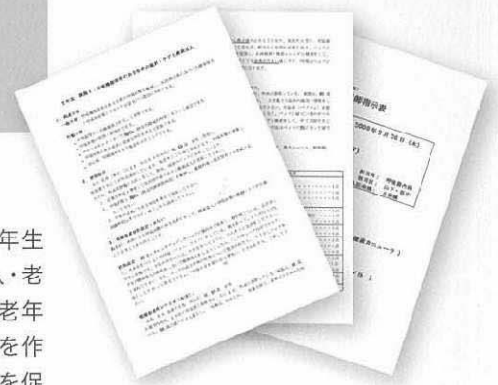
30秒



## OSCE課題調整・運営実施部門 --- OSCE課題調整班

### 課題の検討を重ね、シナリオを作成

課題・シナリオ・評価項目・評価基準の作成と調整を担当します。平成21年度は1年生2課題(基礎看護学領域)、2年生2課題(成人看護学領域)、3年生6課題(成人・老年・小児・母性・精神・在宅看護学領域)、4年生3課題(地域・管理と基礎・成人・老年による複合)の検討を重ねました。また演技の標準化を図り模擬患者用シナリオを作成し、課題の意図、内容について模擬患者説明会を行いました。現在は自己学修を促すことを目的に、過去の課題や出題傾向などのWEB公開準備を進めています。



[実際にOSCEで使用したシナリオ]

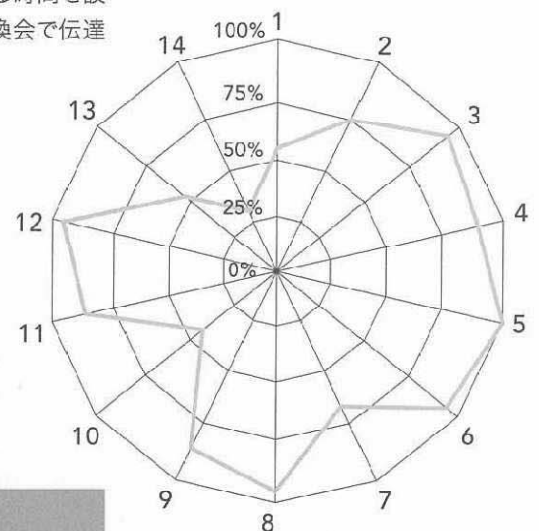
## 実践評価部門

### Mulberryを活用した評価分析を実施

第一段階として、本学が開発したOSCE支援システム「Mulberry-Ozoneシステム(Ver.2010)」の活用により、OSCE当日に評価項目別の平均点、課題別の最高点・平均点を示すと共に、学生個別の評価シート(図参照)を作成。次いで第二段階として、OSCE実施から約1ヵ月後、模擬患者からの課題別感想、評価担当教員と模擬患者の講評を記したOSCE個人シートを基に再度OSCEを振り返り、自己の課題を明確にする時間を設けました。OSCE全体の評価は、教員にはFD研修会で、模擬患者には意見交換会で伝達し、今後のOSCE評価に向けての意見をもらう機会としました。

図中の1から14の数字は評価項目を表し、  
青色の線は学生個人の評価結果を示しています。

[学生個別評価シート例]



## 広報・情報部門 --- 教育GP公開企画班

### 学内や学外に向けて情報を公開

学内・学外への情報公開を担当します。平成21年度はOSCE周知と自主的参加を促す学生ガイダンスを実施。学外に向けては年度末に「OSCE2年目の取組み—成果と展望」と題し成果報告会を行いました。同会には全国の大学から計106名の参加を得て意見を交わしました。学部教育の中でのOSCEの位置づけや評価、看護技術到達度への貢献、実習指導者との連携への提案などがみられ、フロアとOSCEを介した看護教育方法を共有しました。次回はOSCE3年目の成果を総括する予定です。





## OSCE課題調整・運営実施部門 --- OSCE運営実施班

### 実施計画から当日の運営まで

平成21年度は全学年(1~4学年)のOSCE試験が実施され、看護学全領域がOSCE課題を作成した初めての年でした。運営実施班では全学年のOSCE実施計画を作成し、実施マニュアルの作成、準備、リハーサル、当日進行などを施行しました。22年度のOSCE実施の特質は全学生にOSCE受験を義務づけることになったことです。また実技指インストラクターの有効な活動を推進するために、教員と学生に向けて周知を計画的に進めていきます。



[OSCE 運営実施マニュアル]

## 学年別検証部門

### 学年別到達度を評価してフィードバック

平成21年度は、20年度に実施したOSCEの学年別到達度を検証しました。その結果から改善点を導き出し、OSCE課題の学年別難易度を可視化した「SCU OSCE MAP (札幌市立大学看護学部が取り組んでいる学年別OSCEの出題可能項目に関する体系表)」を作成しました。このMAPに基づいて、21年度はOSCEの課題作成および実施運営上の調整が行われました。現在は21年度に実施したOSCE結果の検証を行い、22年度OSCEの課題作成前に改善点の提案を行う準備を進めています。

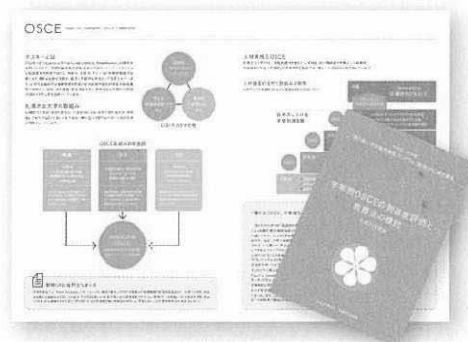
## 広報・情報部門 --- 教育GP広報・情報班

### ホームページやパンフレット、映像を制作

広報・情報班は看護・デザイン両学部の共同チームです。平成21年度はOSCE2年目のホームページを更新し、パンフレット第2号を編集、発行しました。ホームページは大学のホームページにリンクさせ、OSCEの最新情報を届けています。また全学年9看護領域のOSCE実施場面の映像を記録し、広報用・教育用にそれぞれ編集、保存しています。これら記録・保存したデータの利用しやすい管理方法を検討中です。



OSCEの取り組みを紹介するホームページ  
<http://www.osce.scu.ac.jp/>



[平成21年度版パンフレット]



OSCE撮影風景

## 模擬患者養成講座等部門

### 模擬患者(SP)のスキルアップを

模擬患者の養成はSP養成コース(入門編)とフォローアップ研修コース(実践編)の2部構成で行います。平成21年度は、20年度に入門編を修了した32名にフォローアップ研修コースを開催しました。本コースを修了した26名が現在SPとしてOSCE・SP参加型演習などで活躍しています。今年度はスキルアップを図り①SPを中心とした学習会の開催、②他大学のSPとの学習交流、③OSCE・SP参加型演習の担当教員との調整、事前練習、事後の振り返りの支援を計画しています。



## 臨地実習指導者会議担当部門

### 臨地実習指導者との情報交換を

臨地実習とは病院や医療・保健・福祉に関連した施設で行う実習を指します。臨地実習指導者会議部門は臨地実習指導者との情報交換・問題の共有を通し、学生の看護実践能力の向上を目指します。本学は年間13の実習が計画され、136施設192名の臨地実習指導者による指導を受けながら看護実践能力を育てております。全実習が終了する2月に臨地実習指導者会議を開き、情報交換・問題の共有化を行います。平成22年度は、模擬患者参加型授業やOSCEの見学機会を提供してOSCEへの理解を深め、参加者自身の学びとして実感できる体制作りを力注ぎたいと考えています。

## 大学・病院人材育成連携・ 協力プロジェクト部門

### 大学と病院との連携・協力を実践

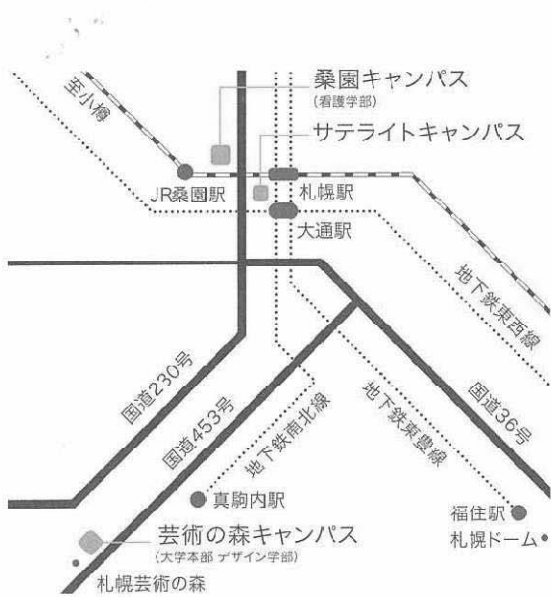
北海道大野病院、札幌徳州会病院、札幌中央病院、市立札幌病院との連携・協力を実践しました。意見交換会では「大学との共同研究をしたい」「教育委員が育った」等の意見がありました。また大学教員との連携を体験した看護師が捉える「教員の持つべき臨床実践能力」についてヒアリング調査を実施しました。その結果、看護大学教員には看護実践能力と教育実践能力のどちらも必要で、その方法論を検討することが課題として残されました。現在は、連携を通して教員が臨床能力を維持・獲得する方策、臨床は教育力やコーチング力・問題解決能力を高めるための方策を検討しています。





## MAP & ACCESS 本学へのアクセス

JR「桑園駅」下車 徒歩3分



大学本部・デザイン学部  
芸術の森キャンパス  
〒005-0864 札幌市産区芸術の森1丁目  
TEL 011-592-2300(代表)

看護学部  
桑園キャンパス  
〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目  
TEL 011-726-2500(代表)



札幌市立大学  
SAPPORO CITY UNIVERSITY

[www.scu.ac.jp](http://www.scu.ac.jp)

## SCHEDULE 平成22年度の予定

- 6月 ● SP養成講座(～7月)
- 9月 ● 各学年のOSCE課題決定  
SP向け特別講演会
- 10月 ● 学生向けOSCE  
オリエンテーションの実施
- 1月 ● SPへのシナリオ説明会  
学生向けOSCEガイダンス
- 2月 ● 臨地実習指導者会議での  
OSCE実施経過報告  
OSCE実施前全体リハーサル  
OSCE実施
- 3月 ● 成果報告会

平成20年度 インターンシップ協力企業・団体一覧  
(対象コース、五十音順)

連番	対象コース	企業名	所在地	受入期間	実働日数	受入人数
1	空間	五十嵐淳建築設計	北海道	①9/1～9/14 ②9/15～10/1	①②14日	3
2	空間	株式会社アトリエaku	北海道(札幌市)	9/16～9/25	8日	1
3	空間	株式会社アトリエテンマ	北海道(札幌市)	8/18～8/29	10日	1
4	空間	株式会社アトリエ・ノルド	岩手県	8/18～8/29	10日	1
5	空間	株式会社伊藤塗工部	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	1
6	空間	株式会社カンディハウス札幌	北海道(札幌市)	8/25～8/31	6日	2
7	空間	札幌駅総合開発株式会社	北海道(札幌市)	8/25～8/29	5日	1
8	空間	札幌市役所 経済局 産業振興部経済企画課	北海道(札幌市)	9/1～9/12	10日	1
9	空間	札幌市役所 市民まちづくり局 企画部企画課	北海道(札幌市)	8/25～8/29	5日	1
10	空間	札幌市役所 市民まちづくり局 都市計画部都市計画課	北海道(札幌市)	9/3～9/12	8日	1
11	空間	美唄市役所 宮島沼水島・湿地センター	北海道	8/13～8/17	5日	1
12	製品	アームデザイン株式会社	北海道(札幌市)	9/8～9/12	5日	1
13	製品	株式会社W i l l - E	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	1
14	製品	株式会社内田洋行	東京都	8/25～9/5	10日	1
15	製品	財団法人札幌市芸術文化財団 札幌芸術の森	北海道(札幌市)	①9/8～9/14 ②9/8～9/21	①7日 ②10日	3
16	製品	北海道立工業試験場 製品技術部製造技術科	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	3
17	製品	北海道立工業試験場 製品技術部デザイン開発科	北海道(札幌市)	9/1～9/9	7日	3
18	コンテンツ	イトキン株式会社	北海道(札幌市)	9/2～9/13	10日	1
19	コンテンツ	株式会社インテリジェント・リンク	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	1
20	コンテンツ	株式会社データクラフト	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	2
21	コンテンツ	株式会社DCアーカイブス	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	1
22	コンテンツ	株式会社ユーザデザインラボ	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	2
23	コンテンツ メディア	東海林商事株式会社	北海道(札幌市)	①9/1～9/8、9/18 ②9/8～9/17	①②7日	2
24	コンテンツ	フュージョン株式会社	北海道(札幌市)	8/19～8/30	9日	1
25	コンテンツ	北海道日興通信株式会社	北海道(札幌市)	8/25～8/29	5日	2
26	コンテンツ	有限会社寿郎社	北海道(札幌市)	8/11～8/22	11日	1
27	メディア	株式会社アウラ	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	1
28	メディア	株式会社アント	北海道(札幌市)	9/2～9/8	6日	1
29	メディア	株式会社イエス・アイ・アム	東京都	8/15～8/22	6日	1
30	メディア	株式会社イエローページ	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	2
31	メディア	株式会社イザ	北海道(札幌市)	9/1～9/5	5日	1
32	メディア	株式会社インプロバイド	北海道(札幌市)	9/1～9/26	18日	1
33	メディア	株式会社ウエス	北海道(札幌市)	8/13～8/17	5日	1
34	メディア	株式会社エイベック研究所	東京都	9/1～9/12	10日	2
35	メディア	株式会社SPフォーラム	東京都	9/1～9/6	6日	1
36	メディア	株式会社NTT DoCoMo北海道支社	北海道(札幌市)	9/1～9/12	10日	1
37	メディア	株式会社CGMマーケティング	東京都	9/8～9/12	5日	1
38	メディア	株式会社ディージー・アンド・アイベックス	東京都	9/1～9/12	10日	1
39	メディア 空間	株式会社都市デザインシステム 札幌オフィス	北海道(札幌市)	8/18～8/22	5日	2
40	メディア	株式会社トライ・ビー・サッポロ	北海道(札幌市)	9/1～9/12	10日	2

連番	対象コース	企業名	所在地	受入期間	実働日数	受入人数
41	メディア	株式会社乃村工藝社北海道支店	北海道（札幌市）	9/1～9/5	5日	1
42	メディア	株式会社北海道博報堂	北海道（札幌市）	8/22、9/1～9/5	6日	1
43	メディア	株式会社マーケティング・コミュニケーション・エルグ	北海道（札幌市）	9/1～9/12	10日	2
44	メディア	キューエンタテインメント株式会社	東京都	9/1～9/5	5日	2
45	メディア	札幌市役所 観光文化局 観光部観光企画課	北海道（札幌市）	8/13～8/15 8/20～8/22	6日	1
46	メディア	札幌市役所 観光文化局 文化部市民文化課	北海道（札幌市）	8/18～8/22	5日	1
47	メディア	札幌市役所 総務局 広報部広報課	北海道（札幌市）	9/8～9/12	5日	1
48	メディア	財団法人札幌国際プラザ さっぽろフィルムコミッション	北海道（札幌市）	9/22～29	5日	1
49	メディア	太陽企画株式会社	東京都	9/8～9/12	5日	1
50	メディア	北海道テレビ放送株式会社	北海道（札幌市）	9/1～9/5	5日	2
51	メディア	防衛省 自衛隊札幌地方協力本部	北海道（札幌市）	9/8～9/12	5日	1
52	メディア	有限会社寺島デザイン制作室	北海道（札幌市）	8/28～9/19	16日	1

平成21年度 インターンシップ協力企業・団体一覧  
 (対象コース、五十音順)

コース	決定企業	実習期間	受入人数
空間	家具工房 森巢	8/18-8/24	1
空間	株式会社アトリエ aku	9/7-9/18	1
空間	株式会社カンディハウス	8/18-8/31	1
空間	株式会社北海道日建設計	8/31-9/11	1
空間	ケントハウス株式会社	8/19-25	1
空間	札幌駅総合開発株式会社	8/24-8/28	1
空間	象設計集団・十勝事務所	8/17-8/28	1
空間	日本データサービス株式会社	8/17-8/21	1
空間	有限会社北海道建築工房	8/17-22, 24-29	1
空間	株式会社i・e・s(イエス)リビング倶楽部	9/11, 14, 15, 17, 18	1
空間	株式会社KITABA	8/29-9/11	1
空間	株式会社アトリエ・テンマ	8/17-25	1
空間	株式会社エコテック	8~9月の10日間	1
空間	株式会社カンディハウス札幌	9/7-9/12	1
空間	株式会社手塚建築研究所 (東京)	8/31-9/12	1
空間	株式会社十勝毎日新聞社	9/7-9/11	1
空間	株式会社中田ミノル建築デザイン事務所	8/24-9/4	1
空間	札幌市役所市長政策室広報部広報課	8/24-8/28	1
空間	札幌市役所市民まちづくり局都市計画部地域計画課	8/24-8/28	1
空間	札幌市役所都市局建築部建築企画課	8/19-8/28	2
空間・メディア	札幌市役所市長政策室政策企画部企画課	8/20-8/26	2
製品	アームデザイン株式会社	8/17-28	1
製品	有限会社設計事務所ゴンドラ	9/7-9/18	1
製品	株式会社Will-E	9/7-9/11	2
製品	株式会社プラウシッパ	9/7-9/11	5
製品	株式会社ユーザデザインラボ	8/31-9/4	1
製品	札幌市役所経済局産業振興部産業振興課	8/31-9/11	2
製品	札幌市芸術文化財団	8/31-9/11	2
製品	北海道立工業試験場デザイン開発科	9/14-25	3
コンテンツ	加森観光株式会社	8/16-8/20	1
コンテンツ	東海林商事株式会社	8/17-8/28	2
コンテンツ	防衛省 自衛隊札幌地方協力本部	8/17-8/19	1
コンテンツ	株式会社DCアーカイブズ	8/31-9/4	1
コンテンツ	株式会社インテリジェントリンク	8/31-9/4	2

コンテンツ	株式会社データクラフト	8/31-9/4	1
コンテンツ	株式会社ビーコミュニケーションズ	9/14-9/25	1
コンテンツ	株式会社メディアマジック	8/31-9/11	1
コンテンツ	北海道日興通信株式会社	9/14-9/18	2
コンテンツ・メディア	株式会社さっぽろ村ラジオ	8/13-8/18	2
コンテンツ・メディア	富士プリント株式会社	8/24-9/4	2
メディア	HTB 北海道テレビ株式会社	8/24-9/4	1
メディア	カメレオンレーベル	9月のうち5日間	1
メディア	札幌市役所観光文化局文化部市民文化課	9/14~18	1
メディア	有限会社寺島デザイン制作室	9/8-9/18	1
メディア	株式会社 丹青社	9/7-9/11	1
メディア	株式会社アウラ	8/31-9/4	2
メディア	株式会社イエローページ	8/24-8/28	2
メディア	株式会社エイベック研究所	9/7-9/18	1
メディア	株式会社ディプトリクス	7/27-7/31	1
メディア	株式会社電通北海道	8/17-21	1
メディア	株式会社マーケティング・コミュニケーション・エルグ	8/17-8/28	1
メディア	株式会社モーニング	8/17-8/21	1
メディア	株式会社北海道博報堂	9/7-9/11	1
メディア	札幌市役所観光文化局観光コンベンション部観光企画課	8/17~21	1

## 平成18～22年度 入試結果

### デザイン学部、デザイン研究科

#### 1. デザイン学部(一般選抜、特別選抜)の状況

##### 【平成18年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	54	414	396	87	53	7.7	7.3	60.9%
	後期日程	14	285	184	19	17	20.4	13.1	89.5%
特別選抜	推薦選考	12	61	61	12	11	5.1	5.1	91.7%
	社会人	若干名	5	5	0	0			0.0%
	私費外国人留学生	若干名	2	2	1	0			0.0%
合計		80	767	648	119	81	9.6	8.1	68.1%

##### 【平成19年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	54	166	165	61	58	3.1	3.1	95.1%
	後期日程	14	186	107	14	12	13.3	7.6	85.7%
特別選抜	推薦選考	12	34	34	12	12	2.8	2.8	100.0%
	社会人	若干名	3	3	1	1			100.0%
	私費外国人留学生	若干名	0	0	0	0			0.0%
合計		80	389	309	88	83	4.9	3.9	94.3%

##### 【平成20年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	54	171	169	63	59	3.2	3.1	93.7%
	後期日程	14	202	122	15	15	14.4	8.7	100.0%
特別選抜	推薦選考	12	40	40	12	12	3.3	3.3	100.0%
	社会人	若干名	3	3	1	1			100.0%
	私費外国人留学生	若干名	0	0	0	0			0.0%
合計		80	416	334	91	87	5.2	4.2	95.6%

##### 【平成21年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	54	164	161	60	59	3.0	3.0	98.3%
	後期日程	14	172	97	14	13	12.3	6.9	92.9%
特別選抜	推薦選考	12	52	52	12	12	4.3	4.3	100.0%
	社会人	若干名	1	1	0	0			0.0%
	私費外国人留学生	若干名	2	2	0	0			0.0%
合計		80	391	313	86	84	4.9	3.9	97.7%



## 平成18～22年度 入試結果

【平成22年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	54	164	158	60	58	3.0	2.9	96.7%
	後期日程	14	180	98	14	12	12.9	7.0	85.7%
特別選抜	推薦選考	12	38	38	12	12	3.2	3.2	100.0%
	社会人	若干名	1	1	0	0			0.0%
	私費外国人留学生	若干名	2	2	1	1			100.0%
合計		80	385	297	87	83	4.8	3.7	95.4%

### 2. デザイン学部(3年次編入学)の状況

【平成20年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
編入学試験	空間	若干名	16	15	8	8			100%
	製品	若干名	5	5	2	2			100%
	コンテンツ	若干名	3	3	2	2			100%
	メディア	若干名	5	4	4	4			100%
合計		20	29	27	16	16	1.5	1.4	100%

【平成21年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
編入学試験	空間	若干名	20	19	8	8			100%
	製品	若干名	6	6	2	2			100%
	コンテンツ	若干名	6	6	4	4			100%
	メディア	若干名	8	8	4	4			100%
合計		20	40	39	18	18	2.00	1.95	100%

【平成22年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
編入学試験	空間	20	7	6	3	3			100.0%
	製品		3	3	2	1			50.0%
	コンテンツ		4	4	3	3			100.0%
	メディア		7	7	3	3			100.0%
合計		20	21	20	11	10	1.05	1	90.9%

### 3. デザイン研究科の状況

【平成22年度】

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	18	26	24	16	15	1.4	1.3	93.8%
特別選抜(社会人)	若干名	7	7	4	3			75.0%
合計	18	33	31	20	18	1.8	1.7	90.0%

看護学部、看護学研究科

1. 看護学部(一般選抜、特別選抜)の状況

【平成18年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	48	811	773	94	48	16.9	16.1	51.1%
特別選抜	推薦選考	32	96	96	31	31	3.0	3.0	100.0%
	社会人	若干名	18	18	3	3			100.0%
合計		80	925	887	128	82	11.6	11.1	64.1%

【平成19年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	48	170	164	48	47	3.5	3.4	97.9%
特別選抜	推薦選考	32	64	64	32	32	2.0	2.0	100.0%
	社会人	若干名	25	24	3	3			100.0%
合計		80	259	252	83	82	3.2	3.2	98.8%

【平成20年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	48	139	137	48	47	2.9	2.9	97.9%
特別選抜	推薦選考	32	77	77	34	34	2.4	2.4	100.0%
	社会人	若干名	27	27	3	3			100.0%
合計		80	243	241	85	84	3.0	3.0	98.8%

【平成21年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	48	130	122	48	45	2.7	2.5	93.8%
特別選抜	推薦選考	32	78	78	35	35	2.4	2.4	100.0%
	社会人	若干名	18	18	4	4			100.0%
合計		80	226	218	87	84	2.8	2.7	96.6%

【平成22年度】

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	前期日程	48	141	138	48	47	2.9	2.9	97.9%
特別選抜	推薦選考	32	90	90	32	32	2.8	2.8	100.0%
	社会人	若干名	35	35	3	3			100.0%
合計		80	266	263	83	82	3.3	3.3	98.8%

2. 看護学部(3年次編入学)の状況

【平成20年度】

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
編入学試験	10	30	30	10	8	3.0	3.0	80.0%

【平成21年度】

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
編入学試験	10	23	23	11	7	2.3	2.3	63.6%

【平成22年度】

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
編入学試験	10	28	28	10	9	2.8	2.8	90.0%

3. 助産学専攻科の状況

【平成22年度】

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
助産学専攻科	10	12	12	10	9	1.2	1.2	90.0%

4. 看護学研究科の状況

【平成22年度】

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率 (志/募)	受験倍率 (受/募)	入学率 (入/合)
一般選抜	18	7	7	5	5	0.4	0.4	100.0%
特別選抜(社会人)		14	14	13	13			100.0%
合計	18	21	21	18	18	1.2	1.2	100.0%

# アドミッションポリシーの改正

## デザイン学部

### 【改正前】

＜デザイン学部の求める学生像＞

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人



### 【改正後】

＜デザイン学部の求める学生像＞

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

このため、入学者には、日ごろから、人間及びその生活を豊かにするデザインに興味・関心を持ち、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けて、日々の学習の中で幅広い基礎学力・思考力・発想力を身に付けるとともに、多くの人々と協働するためのコミュニケーション能力を備えていることが求められます。

## 看護学部

### 【改正前】

＜看護学部の求める学生像＞

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的・意欲的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、地域に根ざした医療に貢献する意志と責任感を備えた人



### 【改正後】

＜看護学部の求める学生像＞

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、積極的に地域に貢献する意志を備えた人

そのためには、高等学校における国語、英語、数学、理科などの基礎的な学力、及び課外活動等によって培われた協調性や責任感のある人を求めています。

平成18～22年度 科目等履修生受入状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
デザイン学部	26	21	9	14	2
看護学部	0	1	0	3	2

○学部連携演習の実施状況

	テーマ	チーム	担当教員	
			デザイン	看護
2008年度	大学キャンパスにおける多世代間交流の場の創出	A	武田 亘明 望月 澄人	守村 洋
	高齢者に向けたTVゲームの企画			
	こころの健康 ～生きがいづくり～			
	積雪寒冷地・札幌における高齢者の住環境に関する調査研究 －高齢者の暮らしやすいまちへの改善提案－	B	中原 宏 齊藤 雅也	菅原 美樹
	積雪寒冷地・札幌における高齢者の住環境に関する調査研究			
	高齢者ための健康遊具	C	張 浦華 石崎 友紀	大野 夏代
	女性高齢者のための歩行補助器具			
	高齢者のニッチを通したまちづくり	D	矢部 和夫 那須 聖	坂倉 恵美子
	田舎コミュニケーション宿泊施設「えぞ宿」運営計画	E	上遠野 敏	保田 玲子
	「次世代の育成」 世代間の交流を軸とした、高齢者活性化の場づくり	F	吉田 和夫	松浦 和代
	高齢者の生活を安全に豊かにするために	G	杉 哲夫 齋藤 利明	菊地 ひろみ
	転倒予防のためのインタラクティブゲームの提案			
	クリエイティブ・エイジング	H	武邑 光裕	新納 美美
	ハッピーリタイア			
	札幌市における高齢化社会の介護、医療、生活の実態	I	羽深 久夫 山田 良	佐藤 公美子
	地域における世代間交流			
	私たちが理想とする将来の住まい			
高齢者レスキュー	J	城間 祥之 ニーナ・ フィッシャー	藤井 瑞恵	
高齢者元気プロジェクト				
高齢者のイメージ				
「音楽」 新しい音楽生活サポートシステムの提案	K	細谷 多聞 マロアン・エ ル・サニ	宮崎 みち子	
今日 を如何に生きるか				
2009年度	移動式世代間交流	つながって隊	酒井 正幸	スーディ神崎 和代
	マタニティのための提案	うずらくらぶ	細谷 多聞	樋之津 淳子
	食育とコミュニティ	愛色るしえ	武田 亘明	須田 恭子
	楽しい歯磨きのためのアニメーション	Animo de びかびか プー	張 浦華	清水 光子
	子育て支援	メリーゴーランド	上田 裕文	河村 奈美子
	LGBTを元気にしたい	Smile FURUSHIKI	須之内 元洋	星 美和子
	大学生の食意識改善のためのSCU学生食堂プロジェクト	3B	那須 聖	吉川 由希子
	手をつなぐ	プロジェクトC	齊藤 雅也	渡辺 由加利
	食育	チームby	福田 大年	櫻井 繭子
	「@Park」+おにごっこ公園+看護の視点から	山田公園	山田 良	進藤 ゆかり
	一人暮らしのメンタル面を考える	イチブノニ	三谷 篤史	三上 智子



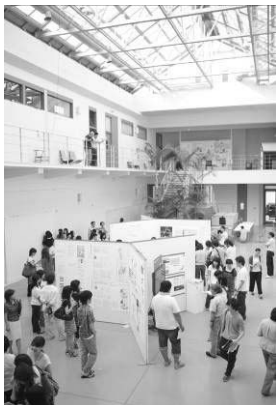
# 学部連携演習最終報告会

2009年8月4日 (火) 芸術の森キャンパス A棟プラザ・B棟プラザ



## 学部連携演習チーム別活動風景

(ブレイクストーミング、遠隔IV会議、地域住民の協力による試作品テスト)



## 学部連携演習プロジェクト事例

**ハニカムマット**  
視覚的効果を生かしたマット。この上での歩行や座りなどで視覚的効果が現れます。また、歩行時の足音や振動を軽減させるので、高齢者や障害者などにも活用が期待されています。

踏んで、遊んで、転ばない!

4つのバリエーション

組み合わせラクラク

ハニカムスタイル

**知る**

PaPeRoのボディには計4つのタッチセンサーが搭載されている。それぞれのセンサーに触れることで、音声出力、身体振動などの動作を行う。例えば「おはよう」はPaPeRoの目を動かして、前向きに歩くとリンクのハート形に点滅する。動作シミュレーションは、ピンクの矢印が示すように行われる。

**動く**

PaPeRoの足元の一つとして、音を知る。ボディの動きによる「知る」が実現する。これらの動きによってPaPeRoの感情をより豊かに表現することが可能である。下部のホールで歩行や振動などの動作を行うこともできる。

**伝える**

視覚的効果を生かしたPaPeRoに伝言を渡すことができるようになる。伝言の形式は音声や振動の2つの方法を組み合わせることができる。伝言を聞く相手は、すでに登録されている人物に限られる。

**話す**

音声認識機能を用いることで、PaPeRoと言葉を交わすことが可能になる。聞き取り可能なワードに対しては、あらかじめ用意されたやり取りを行う。話し掛けられるとそれに応じた反応を示す。誤動作はユーザーが自由に設定することもできる。

**認識する**

顔の輪郭にはカメラが搭載されている。これにより目の人物の顔を認識することが可能である。さらにその顔をPaPeRoの内部に記憶させることもできる。記憶した顔は「顔を知りまわす」として呼びかけることで、認識される顔に対して異なる反応を示すことも可能である。認識した顔が来るとPaPeRoが顔を向けてくれることである。

**連携アシスト**

PaPeRoは本来自動で行動するが、無線LANを用いたことで離れた場所からPaPeRoを操作することが可能になる。この「連携アシスト」機能によってその場にいない言葉を伝えたり、誰かがそばにいないというアクションをユーザー側から実行することができる。

## 2006 e-learningシステム(webtube)活用科目一覧

	科目名	履修者数
1	スタートアップ演習	162
2	札幌を学ぶ	172
3	現代社会と家族	153
4	統計の世界	163
5	対人コミュニケーション	92
6	英語ⅡA	47
7	英語ⅡB	42
8	感染予防論	81
9	看護過程論	81
10	基礎看護技術論	81

## 2007 e-learningシステム(webtube)活用科目一覧

	科目名	履修者数
1	スタートアップ演習	164
2	札幌を学ぶ	149
3	現代社会と家族	129
4	統計の世界	161
5	対人コミュニケーション	74
6	英語ⅡA	40
7	英語ⅡB	42
8	家族社会学	45
9	在宅看護援助論	81
10	感染予防論	81
11	成人看護学臨地実習Ⅰ	81
12	症状マネジメント論	81
13	看護過程論	82
14	感染管理論	49
15	基礎看護技術論	81
16	小児看護学概論	81

## 2008 e-learningシステム(webtube)活用科目一覧

	科目名	履修者数
1	スタートアップ演習	171
2	札幌を学ぶ	161
3	現代社会と家族	89
4	統計の世界	192
5	対人コミュニケーション	58
6	英語ⅡA	42
7	英語ⅡB	43
8	家族社会学	63
9	保健医療福祉制度論	88
10	在宅看護援助論	80
11	小児看護学臨地実習	79
12	感染予防論	83
13	成人看護学臨地実習Ⅰ	79
14	症状マネジメント論	82
15	看護過程論	83
16	研究方法論	87
17	感染管理論	40
18	基礎看護技術論	83
19	在宅看護技術論	80
20	小児看護援助論	80
21	小児看護学概論	79
22	小児看護技術論	80

## 2009 e-learningシステム(webtube)活用科目一覧

	科目名	履修者数
1	スタートアップ演習	168
2	札幌を学ぶ	150
3	現代社会と家族	95
4	統計の世界	186
5	対人コミュニケーション	51
6	英語ⅡA	46
7	英語ⅡB	42
8	家族社会学	54
9	ヘルスケアマネジメント実習	87
10	保健医療福祉制度論	86
11	在宅看護援助論	80
12	小児看護学臨地実習	80
13	感染予防論	83
14	成人看護学臨地実習Ⅰ	81
15	症状マネジメント論	83
16	看護管理学	87
17	看護過程論	83
18	研究方法論	86
19	感染管理論	24
20	基礎看護技術論	83
21	在宅看護技術論	79
22	小児看護援助論	79
23	小児看護学概論	81
24	小児看護技術論	79

# 公立大学法人札幌市立大学学生表彰規則

平成18年4月1日

平成18年規則第36号

改正 平成22年規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、札幌市立大学学則（平成18年学則第1号）第49条及び札幌市立大学大学院学則（平成21年学則第2号）第44条に規定する学生の表彰に関し必要な事項を定めるものとする。

(表彰の基準)

第2条 表彰は、次の各号のいずれかに該当する本学の学生又は学生を構成員とする団体（以下「学生等」という。）に対して行うことができる。

- (1) 学業及び研究活動において、特に顕著な業績を挙げたと認められるもの
- (2) 課外活動において特に優秀な成績を挙げ、課外活動の振興に功績があったと認められるもの
- (3) 社会活動において特に顕著な功績を残し、社会的に高い評価を受けたと認められるもの
- (4) その他前3号に掲げるものと同等以上の表彰に値する行為があったと認められるもの

(表彰の推薦)

第3条 学部長又は研究科長は、前条各号に掲げる表彰の基準に該当すると認められる学生等について、教授会又は研究科教授会の議を経て、推薦書（別記様式）により学長に表彰の推薦を行うことができる。

(表彰の実施)

第4条 学長は、前条の推薦を受けた学生等を表彰することを決定した場合は、速やかに学生等に対する表彰を行うものとする。

- 2 表彰は、学長が表彰状を授与することにより行う。
- 3 学長は、前項の表彰状とともに、記念品を授与することができる。

(委任)

第5条 この規則に定めるもののほか、学生の表彰に関し必要な事項は、別に



定める。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 22 年改正確則第 13 号）

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

# 公立大学法人札幌市立大学学生表彰規程

平成22年2月17日

平成22年規程第3号

## (趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人札幌市立大学学生表彰規則（平成18年規則第36号。以下「規則」という。）の規則第5条の規定に基づき、表彰の実施に係る必要な事項を定めるものとする。

## (表彰の種類)

第2条 表彰の種類は、学長優秀賞及び学長奨励賞とする。

## (学長優秀賞の対象及び選考基準)

第3条 学長優秀賞は、原則として在学期間中を通じて顕著な成績を挙げた卒業確定者である本学の学生を対象とし、選考基準は次に掲げるとおりとする。

- (1) 毎年度卒業する各学部の学生の中から、原則として成績優秀者1名を学長優秀賞として表彰することとする。
- (2) 成績優秀者を選定する方法は在学期間中のGPA等を基準とし、各学部において選考を行うこととする。

## (学長奨励賞の対象及び選考基準)

第4条 学長奨励賞は、規則第2条のいずれかに該当し、顕著な成績を挙げた本学の学生又は本学の学生を構成員とする団体（以下「学生等」という。）を対象とし、選考基準は別表のとおりとする。

## (学長奨励賞の公募)

第5条 学部長は、学長に推薦する学長奨励賞の対象となる学生等（以下「奨励賞候補」という。）を公募し、学内掲示等により広く周知するものとする。

- 2 学部長は応募のあった奨励賞候補を教授会に諮り、学長に推薦する奨励賞候補を決定する。

## (表彰の時期及び方法)

第6条 学長優秀賞の表彰は卒業式の日に行うものとする。

- 2 学長奨励賞の表彰は決定後速やかに行うこととする。
- 3 前項の規定にかかわらず、特に必要と認められる場合は学長の決定した日に表彰できることとする。

## (表彰の方法)

第7条 表彰は、学長が表彰状を授与することにより行う。

- 2 学長は、前項の表彰状とともに、記念品を授与することができる。

(表彰の公表)

第8条 公表は、本学ホームページ等に掲載するとともに、学内掲示により広く行うものとする。

(表彰の事務)

第9条 学生等の表彰に関する事務は、学生課若しくは桑園担当課において行うものとする

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、学生の表彰に関し必要な事項は、教務・学生委員会で協議のうえ、別に定めることとする

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

別表（第4条関係） 学長奨励賞の表彰基準について

No.	項目	具体的な基準内容
1	学業及び研究活動	国際的若しくは全国的規模の学会から賞を受けた場合、社会的に高い評価を受けた場合など、顕著な業績を挙げたと認められる学生等
2	課外活動	ア) 体育活動で全国規模又はそれと同等以上の競技会に出場し、優れた成績を収めた学生等 イ) 芸術・文化活動で全国規模又はそれと同等以上のコンクール等で高い評価を得た学生等
3	社会活動	ア) ボランティア活動等において、顕著な活動が認められた学生等 イ) 人命救助、犯罪防止、災害防止に貢献した学生等
4	その他	1～3と同等以上の表彰に値する行為があったと認められる学生等

## 札幌市立大学学生表彰実施要領

平成22年2月3日 部局長会議承認

平成22年2月10日 教務・学生委員会承認

平成22年2月17日 看護学部教授会承認

平成22年2月19日 デザイン学部教授会承認

### (趣旨)

第1条 この要領は、札幌市立大学学生表彰規則（平成18年規則第36号。以下「規則」という。）及び札幌市立大学学生表彰規程（平成22年規程第3号。以下「規程」という。）に基づき、学生表彰の実施に関して必要な事項を定めるものとする。

### (学長優秀賞の被表彰推薦者の選考)

第2条 規程第2条に規定する学長優秀賞の被表彰推薦者の選考を行うため、学長優秀賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）を置く。

### (選考委員会の組織)

第3条 選考委員会は、各学部に設置する。

2 選考委員会は、学部長、教務委員長及び学生支援委員長を含む組織とし、委員長には学部長が就くものとする。

### (学長優秀賞の表彰候補者)

第4条 選考委員会で選考する各学部の学長優秀賞の表彰候補者は、卒業見込み者のうち原則在学期間中のGPA値の上位5名の者とする。

### (学長優秀賞の被表彰推薦者の選考方法)

第5条 選考委員会において、以下の選考基準を勘案して、上記表彰候補者を順位付けし、各学部の被表彰推薦者1名を選出するものとする。なお、被表彰推薦者が卒業認定されなかった場合は、次点のものを被表彰推薦者とする。

① GPA値

② 卒業研究などにおいて優秀な成績を収め、かつ、他の学生の模範となると認められるもの

### (学長奨励賞の表彰候補者)

第6条 学長奨励賞の表彰候補者は、規程第5条に基づき各学部長が行う公募に応募した学生又は学生団体とする。

なお、原則当該年度の表彰候補者は、年度当初から、所定の期日（1月末日）までに応募したものとする。

(学長奨励賞の表彰候補者の事前審査)

第7条 上記学長奨励賞の表彰候補者については、学生支援委員会において、規程第4条別表の表彰基準に基づいて事前審査を行い、被表彰推薦者に該当するか否かを学部長へ報告する。

(表彰者の決定)

第8条 各学部長は、学長優秀賞及び学長奨励賞の被表彰推薦者について、教授会の議を経て、推薦書により学長に表彰の推薦を行い、学長が表彰することを決定する。

(学長奨励賞の重複表彰)

第9条 学長奨励賞に一度表彰された学生が再度表彰に値する行為があった場合は、重複表彰の制限はしないものとし、再度表彰を行うことができるものとする。

(表彰の時期)

第10条 学長優秀賞の表彰は卒業式に、また、学長奨励賞の表彰は決定後速やかに行うこととする。

(表彰の方法)

第11条 表彰は、学長が表彰状を授与することにより行い、併せて記念品を授与することができる。

(その他)

第12条 この実施要領に定めるもののほか、学生表彰の実施に関して必要な事項は、教務・学生委員会において協議の上、決定することとする。



○表彰の状況（平成 21 年度）

学長優秀賞：2 名（デザイン学部 1 名、看護学部 1 名）

学長奨励賞：2 団体（YOSAKOI ソーラン部「真花」、美術部「noumenon」）

## 新採用教員の採用時年齢構成

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
平成20年度					
教授	0	0	0	0	0
准教授	0	0	1	1	1
講師	0	2	0	0	0
助教	0	0	0	0	0
助手	0	0	0	0	0
平成21年度					
教授	0	0	2	1	0
准教授	0	0	0	0	0
講師	0	2	0	0	0
助教	0	0	0	0	0
助手	1	1	0	0	0

客員・特任教授名簿

区分	所属	氏名	期間	当時の肩書き	本学での実績
客員教授	看護学部	富樫 武弘	H18.4.1～H22.3.31	前市立札幌病院長	授業担当、大学と病院・医療業界等との調整
客員教授	デザイン学部	月尾 嘉男	H19.4.1～H20.3.31	東京大学名誉教授	授業担当(非常勤講師)
特任教授	看護学部	富樫 武弘	H22.4.1～	前市立札幌病院長	授業担当、大学と病院・医療業界等との調整
特任教授	看護学部	加藤 登紀子	H22.4.1～	前札幌市立大学教授	専任教員に準じる教育・研究

■高専・高専の閉校に伴う必要な施設改修について

芸術の森キャンパス	H19年度 (H20年3月)高等看護学院閉校)			H20年度 (H21年3月)高等専門学校本科閉校)			H21年度 (H21、専攻科2学年が在籍)			H22年度(予定) (H22、専攻科1学年が在籍)			
	場所	旧	新	備考	場所	旧	新	備考	場所	旧	新	備考	
管理棟2F	理科室	共用実験室	共用実験室	バーションingで仕切り6ブース設置	体育館 研究室	教員研究室	PCコーナーバー室	本部長2F	高専事務局長室	高専事務局長室	大学事務局	専攻科棟3F	専攻科Aトリエ B・C(2室)
	デザイン実習室2	デザイン実習室2	デザイン実習室2	電子工作用ワークテーブル及び備品購入	専門教育 A棟1F	総合実習室1・2	大学2年 Aトリエ1室	一般教育棟3F	大学専務局長室 (総務課)	デザイン実習室として 整備	デザイン実習室3	専攻科棟3F	専攻科Aトリエ
					専門教育 A棟2F	総合実習室3・4	大学3年 Aトリエ1室	一般教育棟2F	キャリア支援室	仕切り壁を撤去し、3室を2室にした。	キャリア支援室	専攻科棟	大学院院教育用に必要な実習室・演習室等の再配置及び改修項目を、施設ワーキンググループで検討中。
					専門教育 B棟2F	高専 Aトリエ2室	大学3年 Aトリエ2室	専門教育A棟1F	塾生室	壁・ドアを設置し、教室仕様にした。	大学4年 Aトリエ1室	その他	既存の教室・研究室の配置見直し、これに伴う改修は施設ワーキンググループで検討することになっている。
						高専Aトリエ	高専Aトリエ	専門教育A棟2F	高専Aトリエ	不要机・ロッカー撤去 新機に机・イス・ロッカーを購入	大学4年 Aトリエ1室		
						高専Aトリエ	高専Aトリエ		高専Aトリエ	不要机・ロッカー撤去 新機に机・イス・ロッカーを購入	大学4年 Aトリエ1室		
						高専Aトリエ	高専Aトリエ		高専Aトリエ	不要机・ロッカー撤去 新機に机・イス・ロッカーを購入	大学4年 Aトリエ1室		
										不要机・ロッカー撤去 新機に机・イス・ロッカーを購入	大学4年 Aトリエ1室		
										不要机・ロッカー撤去 新機に机・イス・ロッカーを購入	大学4年 Aトリエ1室		
										不要机・ロッカー撤去 新機に机・イス・ロッカーを購入	大学4年 Aトリエ1室		
管理棟2F	高専教員室	大学事務局室	大学事務局室					本部長2F	デザイン実習室1	床改修(遊遊室代替)	デザイン実習室1		
	高専講師室	大学事務局準備室	大学事務局準備室					専門教育B棟1F	製版室	大型プリンター2台設置 (Win用、Mac用)	大型プリンター室		
	副学院長室	学生相談室	学生相談室	備品整備				専攻科棟3F	実習室	仕切りを設け、大学研究生用として整備	実習室		
	学院長室	応接室(大学学長室)	応接室(大学学長室)	備品整備									
	高専・大学事務局室	キャリア支援室	キャリア支援室	備品整備									
	調理実習室	学生ホール	学生ホール										
	管理棟3F	母性小児実習室教室1	3F実習室	3F実習室(黒板・棚等の撤去) 洗面カウンター新設 ドア取換(引戸から両開き)									
		教室2	講義室5	仕切り壁撤去、黒板撤去 洗面台撤去									
		化学実習室 看護実習室3	3F実習室準備室	仕切り撤去、既設流し台撤去 手洗いカウンター新設									
		成人・老年実習室	4F実習室 (看護実習室と一体化)	浴室、フローリング改修									
管理棟4F	大型器材室	大型器材室	進り付け取納棚新設										
	器材室	器材室	電気温水器新設 既設流し台改修										

## 平成19(2007)年度後期メンター担当状況

	教員氏名	役職	コ	担当学生	学生数
1	吉田 恵介	教授	空		
2	武邑 光裕	教授	メ		
3	石崎 友紀	教授	コ		
4	上遠野 敏	教授	メ	メディアコース	33名
5	齋藤 利明	教授	コ		
6	酒井 正幸	教授	製	製品コース	12名
7	城間 祥之	教授	コ	07年度生	8名
8	杉 哲夫	教授	製	07年度生	9名
	田中 敏明	教授	製	07年度生	8名
9	中原 宏	教授	空	07年度生	8名
10	原 俊彦	教授	共		
11	羽深 久夫	教授	空	空間コース	10名
12	望月 澄人	教授	コ		
13	矢部 和夫	教授	空	空間コース	9名
14	吉田 和夫	教授	メ		
15	エルサニ マロアン	准教授	メ		
17	張 浦華	准教授	製		
18	フィッシャー ニーナ	准教授	メ		
19	細谷 多聞	准教授	コ	07年度生	9名
21	大淵 一博	講師	コ	コンテンツコース	16名
23	齊藤 雅也	講師	空		
24	那須 聖	講師	空	07年度生	8名
26	松井 美穂	講師	共	07年度生	8名
27	山田 良	講師	空	07年度生	8名
28	三谷 篤史	講師	製	07年度生	8名
29	片山 めぐみ	助教	空		
30	須之内 元洋	助手	メ		

## 平成20(2008)年度前期メンター担当状況

	教員氏名	役職	コース	担当学生	学生数
1	吉田 恵介	教授	空		
2	武邑 光裕	教授	メ		
3	石崎 友紀	教授	コ		
4	上遠野 敏	教授	メ	07年度生	8名
5	齋藤 利明	教授	コ		
6	酒井 正幸	教授	製	製品コース	12名
				08年度スタアプ	8名
7	城間 祥之	教授	コ	07年度生	8名
8	杉 哲夫	教授	製	07年度生	9名
				08年度スタアプ	9名
9	中原 宏	教授	空	07年度生	8名
				08年度スタアプ	9名
10	原 俊彦	教授	共	08年度スタアプ	
11	羽深 久夫	教授	空	空間コース	14名
12	望月 澄人	教授	コ		
13	矢部 和夫	教授	空	08年度スタアプ	9名
14	吉田 和夫	教授	メ		
15	エルサニ マロアン	准教授	メ		
16	武田 亘明	准教授	メ	メディアコース	37名
17	張 浦華	准教授	製	07年度スタアプ(代)	8名
18	フィッシャー ニーナ	准教授	メ		
19	細谷 多聞	准教授	コ	07年度生	9名
20	町田 佳世子	准教授	共	08年度スタアプ	9名
21	大淵 一博	講師	コ	コンテンツコース	16名
22	柿山 浩一郎	講師	製		
23	齊藤 雅也	講師	空	08年度スタアプ	9名
24	那須 聖	講師	空	07年度生	8名
25	福田 大年	講師	コ	08年度スタアプ	9名
26	松井 美穂	講師	共	07年度生	8名
				08年度スタアプ	9名
27	山田 良	講師	空	07年度生	8名
28	三谷 篤史	講師	製	07年度生	8名
				08年度スタアプ	9名
29	片山 めぐみ	助教	空	空間コース	13名
30	須之内 元洋	助手	メ		

## 平成20(2008)年度後期メンター担当状況

	教員氏名	役職	コース	担当学生	学生数
1	吉田 恵介	教授	空		
2	武邑 光裕	教授	メ		
3	石崎 友紀	教授	コ	07製品コース2年	15名
4	上遠野 敏	教授	メ	07メディアコース2年	22名
5	齋藤 利明	教授	コ		
6	酒井 正幸	教授	製	06製品コース3年	12名
				08年度スタアプ	8名
7	城間 祥之	教授	コ		
8	杉 哲夫	教授	製	08年度スタアプ	9名
9	中原 宏	教授	空	08年度スタアプ	9名
10	原 俊彦	教授	共	08年度スタアプ	8名
11	羽深 久夫	教授	空	06空間コース3年	14名
12	望月 澄人	教授	コ		
13	矢部 和夫	教授	空	08年度スタアプ	9名
14	吉田 和夫	教授	メ		
15	エルサニ マロアン	准教授	メ		
16	武田 亘明	准教授	メ	06メディアコース3年	37名
17	張 浦華	准教授	製		
18	フィッシャー ニーナ	准教授	メ		
19	細谷 多聞	准教授	コ	07コンテンツコース2	19名
20	町田 佳世子	准教授	共	08年度スタアプ	9名
21	大淵 一博	講師	コ	06コンテンツコース3	16名
22	柿山 浩一郎	講師	製		
23	齊藤 雅也	講師	空	08年度スタアプ	9名
24	那須 聖	講師	空	07空間コース2年生	11名
25	福田 大年	講師	コ	08年度スタアプ	9名
26	松井 美穂	講師	共	08年度スタアプ	9名
27	山田 良	講師	空	07空間コース2年生	11名
28	三谷 篤史	講師	製	08年度スタアプ	9名
29	片山 めぐみ	助教	空	06空間コース3年生	13名
30	須之内 元洋	助手	メ		

## 平成21(2009)年度前期メンター担当状況

	教員氏名	役職	コース	担当学生	学生数
1	吉田 恵介	教授	空		
2	武邑 光裕	教授	メ	06メディアコース4年	11名
3	石崎 友紀	教授	コ	06製品コース4年	3名
				07製品コース3年	15名
4	上遠野 敏	教授	メ	06メディアコース4年	9名
5	齋藤 利明	教授	コ		
6	酒井 正幸	教授	製	06製品コース4年	3名
				08年度スタアブ	8名
				09年度スタアブ	9名
7	城間 祥之	教授	コ		
8	杉 哲夫	教授	製	06製品コース4年	2名
				08年度スタアブ	9名
9	中原 宏	教授	空	08年度スタアブ	9名
				06空間コース4年	3名
10	羽深 久夫	教授	空	06空間コース4年	6名
11	原 俊彦	教授	共	08年度スタアブ	8名
12	望月 澄人	教授	コ		
13	矢部 和夫	教授	空	06年度空間コース	3名
				08年度スタアブ	9名
				09年度スタアブ	9名
14	吉田 和夫	教授	メ	06メディアコース4年	10名
15	エルサニ マロアン	准教授	メ	06メディアコース4年	4名
16	武田 亘明	准教授	メ	06メディアコース4年	6名
17	張 浦華	准教授	製	06製品コース4年	2名
				09年度スタアブ	9名
18	フィッシャー ニーナ	准教授	メ	06メディアコース4年	2名
19	細谷 多聞	准教授	コ	07コンテンツコース3	19名
20	町田 佳世子	准教授	共	08年度スタアブ	9名
				09年度スタアブ	8名
21	大淵 一博	講師	コ	06コンテンツコース4	16名
22	柿山 浩一郎	講師	製	06製品コース4年	2名
23	小宮 加容子	講師	製	09年度スタアブ(代)	8名
24	齊藤 雅也	講師	空	06年度空間コース	5名
				08年度スタアブ	9名
				09年度スタアブ	8名
25	那須 聖	講師	空	06年度空間コース	3名
				07空間コース3年生	11名
26	福田 大年	講師	コ	08年度スタアブ	9名
				09年度スタアブ	8名
27	松井 美穂	講師	共	08年度スタアブ	9名
				09年度スタアブ	9名
28	三谷 篤史	講師	製	06製品コース4年	2名
				08年度スタアブ	9名
				09年度スタアブ	8名
29	山田 良	講師	空	06年度空間コース	4名
				07空間コース3年生	11名
30	片山 めぐみ	助教	空	06空間コース4年生	13名
31	上田 裕文	助手	空	09年度スタアブ(代)	8名
32	須之内 元洋	助手	メ	07メディアコース3年	22名
33	棟方 渚	助手	コ		

※ マロアン先生 スタアブ担当学生8名 → 小宮加容子先生(代)  
 ニーナ先生 スタアブ担当学生8名 → 上田裕文先生(代)



## 平成21(2009)年度後期メンター担当状況

	教員氏名	役職	コース	担当学生	学生数
1	吉田 恵介	教授	空		
2	武邑 光裕	教授	メ	06メディアコース4年	11名
				07メディアコース3年	4名
				08メディアコース2年	5名
3	石崎 友紀	教授	コ	06製品コース4年	3名
				07製品コース3年	17名
4	上遠野 敏	教授	メ	06メディアコース4年	9名
				07メディアコース3年	4名
				08メディアコース2年	6名
5	齋藤 利明	教授	コ		
6	酒井 正幸	教授	製	06製品コース4年	3名
				09年度スタアプ	9名
7	城間 祥之	教授	コ		
8	杉 哲夫	教授	製	06製品コース4年	2名
9	中原 宏	教授	空	06空間コース4年	3名
10	羽深 久夫	教授	空	06空間コース4年	6名
				08空間コース2年	7名
11	原 俊彦	教授	共		
12	望月 澄人	教授	コ	08コンテンツコース2	17名
13	矢部 和夫	教授	空	06年度空間コース	3名
				09年度スタアプ	9名
14	吉田 和夫	教授	メ	06メディアコース4年	10名
				07メディアコース3年	4名
				08メディアコース2年	6名
15	エルサニ マロアン	准教授	メ	06メディアコース4年	4名
16	武田 亘明	准教授	メ	07メディアコース3年	5名
				08メディアコース2年	6名
17	張 浦華	准教授	製	06製品コース4年	2名
				09年度スタアプ	9名
18	フィッシャー ニーナ	准教授	メ	06メディアコース4年	2名
19	細谷 多聞	准教授	コ	07コンテンツコース3	23名
20	町田 佳世子	准教授	共	09年度スタアプ	8名
21	大淵 一博	講師	コ	06コンテンツコース4	18名
22	柿山 浩一郎	講師	製	06製品コース4年	2名
				08製品コース2年	13名
23	小宮 加容子	講師	製	09年度スタアプ(代)	8名
24	齊藤 雅也	講師	空	06年度空間コース	5名
				09年度スタアプ	8名
25	那須 聖	講師	空	06年度空間コース	5名
				07空間コース3年生	15名
26	福田 大年	講師	コ	09年度スタアプ	8名
27	松井 美穂	講師	共	09年度スタアプ	9名
28	三谷 篤史	講師	製	06製品コース4年	2名
				09年度スタアプ	8名
29	山田 良	講師	空	06年度空間コース	4名
				07空間コース3年生	15名
30	片山 めぐみ	助教	空	08空間コース2年生	10名
31	上田 裕文	助教	空	08空間コース2年生	7名
				09年度スタアプ(代)	8名
32	須之内 元洋	助教	メ	07メディアコース3年	7名
				08メディアコース2年	3名
33	棟方 渚	助手	コ		

※ マロアン先生 スタアプ担当学生8名 → 小宮加容子先生(代)  
 ニーナ先生 スタアプ担当学生8名 → 上田裕文先生(代)

2007年度(平成19年度)メンタリンググループ担当一覧  
 単位:人

担当教員	1年生	2年生	合計
樋之津淳子	8	8	16
福島真里	8	8	16
菊地ひろみ	8	8	16
工藤京子	8	8	16
鶴木恭子	8	9	17
清水光子	8	8	16
塚辺繭子	8	8	16
太田晴美	9	8	17
神島滋子	9	8	17
淵本雅昭	8	8	16

2008年度(平成20年度)メンタリンググループ担当一覧

単位:人

担当教員	1年生	2年生	3年生	合計
宮崎みち子	9	8	8	25
福島真里	8	8	9	25
湊本雅昭	8	9	8	25
村松真澄	9	8	9	26
菅原美樹	17	8	9	34
大野夏代	8	7	17	32
鶴木恭子	8	8	10	26
工藤京子	8	17	9	34
進藤ゆかり	9	9	9	27

2009年度(平成21年度)メンタリンググループ担当一覧

単位:人

担当教員	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
宮崎みち子	12	9	8	17	46
淵本雅昭	11	9	8	8	36
村松真澄	11	9	9	9	38
菅原美樹	8	17	9	9	43
大野夏代	12	8	18	17	55
鶴木恭子	11	8	9	10	38
工藤京子	11	8	17	9	45
進藤ゆかり	8	17	9	9	43

## 札幌市立大学授業料減額免除状況について

※減免申請の有効期限は半期のため、減免の申請は授業料の納入時期に合わせ、前期（4月）、後期（10月）ごとに申請する。

※原則として、半額免除

	デザイン学部	看護学部	合計
平成21年度（後期）	28名	29名	57名
09年度（1年生）	（5名）	（6名）	（11名）
08年度（2年生）	（9名）	（7名）	（17名）
07年度（3年生）	（6名）	（10名）	（16名）
06年度（4年生）	（8名）	（5名）	（13名）
市内入学者	15名	16名	31名
市外入学者	13名	13名	26名
平成21年度（前期）	23名	27名	50名
09年度（1年生）	（3名）	（5名）	（8名）
09年度（編入学生）	（1名）	（0名）	（1名）
08年度（2年生）	（6名）	（8名）	（14名）
07年度（3年生）	（5名）	（9名）	（14名）
06年度（4年生）	（8名）	（5名）	（13名）
市内入学者	12名	14名	26名
市外入学者	11名	13名	24名

※前期、後期授業料減額免除者中、49名が前期、後期とも申請。9名はどちらかのみ申請者。

### 参考

平成20年度（後期）	20名	17名	37名
08年度（2年生）	（6名）	（7名）	（13名）
07年度（3年生）	（6名）	（6名）	（12名）
06年度（4年生）	（8名）	（4名）	（12名）
平成20年度（前期）	18名	13名	31名
08年度（2年生）	（3名）	（5名）	（8名）
07年度（3年生）	（7名）	（5名）	（12名）
06年度（4年生）	（7名）	（3名）	（10名）
平成19年度（後期）	11名	5名	16名
07年度（3年生）	（4名）	（3名）	（7名）
06年度（4年生）	（7名）	（2名）	（9名）
平成19年度（前期）	10名	4名	14名
07年度（3年生）	（4名）	（2名）	（6名）
06年度（4年生）	（6名）	（2名）	（8名）
平成18年度（後期）	6名	3名	9名
平成18年度（前期）	5名	3名	8名

## 日本学生支援機構奨学金の利用状況について

### I. 日本学生支援機構奨学金の利用状況 (平成22年3月現在)

	デザイン学部	看護学部	小 計
09年度(1年生)	42名	50名	92名
(第一種)	(12名)	(19名)	(31名)
(第二種)	(30名)	(31名)	(61名)
08年度(2年生)	40名	52名	92名
(第一種)	(11名)	(17名)	(28名)
(第二種)	(29名)	(35名)	(64名)
09年度(編入生)	8名	3名	11名
(第一種)	(1名)	(0名)	(1名)
(第二種)	(7名)	(3名)	(10名)
07年度(3年生)	35名	50名	85名
(第一種)	(10名)	(26名)	(36名)
(第二種)	(25名)	(24名)	(49名)
08年度(編入生)	5名	1名	6名
(第一種)	(0名)	(0名)	(0名)
(第二種)	(5名)	(1名)	(6名)
06年度(4年生)	39名	44名	83名
(第一種)	(8名)	(17名)	(25名)
(第二種)	(31名)	(27名)	(58名)
<b>合 計</b>	<b>169名</b>	<b>200名</b>	<b>369名</b>
(第一種)	(42名)	(79名)	(121名)
(第二種)	(127名)	(121名)	(248名)

※ 上記のうち、デザイン学部9名、看護学部22名の計31名が第一種と第二種を併用。

#### 奨学金概要

①第一種奨学金(無利子貸与) 30,000円、自宅月額 45,000円、自宅外月額 51,000円

②第二種奨学金(有利子貸与) 月額 30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・120,000円から選択

【返還】返還方法…口座振替。「月賦返還」または「月賦・半年賦併用返還」を選択。返還回数等は学生支援機構が指定する。

返還開始…卒業の翌日から数えて7ヶ月目の27日(3月卒業の場合の初回振替は10月27日)

その他

札幌市奨学金 8名

北海道看護協会奨学金 2名

北海道看護職員奨学金 5名

## サテライトキャンパス利用状況

	セミナー		会議		学会		その他		合計		総計
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	
平成18年度	17	10	56	11			17	4	90	25	115
平成19年度	50	27	166	25	6	0	35	1	257	53	310
平成20年度	34	17	97	94	25	9	11	9	167	129	296
平成21年度	49	1	170	11	44	0	21	0	284	12	296

コピー用紙購入量(A4判換算枚数)

(単位:枚)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
枚数	330,250	1,538,500	1,762,500	2,546,500
前年比	-	465.86%	114.56%	144.48%
備考	札幌市から引き継いだコピー用紙があり、大学における用紙購入量が少なかった。	-	-	大学院設置事務により用紙消費量が増加したと考えられる。



## 外部委託等の実施状況

	項目
(施設維持管理－芸術の森キャンパス)	警備
	清掃
	設備保守
	エレベーター保守
	自動ドア保守
	自動制御装置保守
	中央監視装置保守
	電話設備保守
	自家用電気工作物保守
	塵芥処理
	室内植込管理
	緑地管理
	// 冬囲い
	消防用設備点検
	除雪
	排雪
(施設維持管理－桑園キャンパス)	警備
	清掃
	設備管理
	エレベーター保守
	自動ドア保守
	自動制御装置保守
	中央監視装置保守
	電気保安
	ボイラー測定
	定期ボイラー点検
	塵芥処理
	衛生管理
	庭園等
消防設備	
除雪	
(事務系)	教職員給与及び旅費支給補助
	サテライト管理運営補助
(その他)	入学式式典運営(平成18年度から)
	卒業式式典運営(平成21年度から)

## 人材派遣の受け入れ状況

配置先	派遣期間	備考・説明
学生課	H18.4.1～19.3.31	教務関係事務。派遣後、プロパー採用
学生課	H18.4.1～19.3.31	教務関係事務。派遣後、プロパー採用
桑園担当課	H18.4.1～19.3.31	教務関係事務。派遣後、プロパー採用
桑園担当課	H18.4.1～19.3.31	教務関係事務。派遣後、プロパー採用
経営企画課管理職	H18.4.1～19.3.31	産学連携・国際化推進等事務。派遣後、プロパー採用
総務課	H19.1.1～19.6.30	財務関係事務。派遣後、プロパー採用
桑園担当課	H20.5.1～20.8.31	教務関係事務。
総務課	H21.5.1～	経理伝票整理等。週20時間労働
経営企画課	H21.10.16～22.1.31	職員退職による欠員補充。フルタイム労働。

○平成 20 年度自己点検・評価における改善等が必要な項目

No.	点検・評価項目	改善・改革に向けた方策
29	海外の大学との学生交流協定の締結状況とそのカリキュラム上の位置づけ	<p>今後、学生に海外大学での修学機会を通じて国際的視野を修得させ、また大学間の学生交流を活性化させるためにも、協定する海外大学を中心に具体的な検討が必要である。</p> <p>(取組状況)</p> <p>平成 21 年度は、大学間協定校である清華大学での招待講演及び承德医学院と本学の学生を対象とした共同研究を行った。平成 22 年度には教員交流を行い、学生交流の可能性について具体的な協議を行う予定である。</p>
46	厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況	<p>シラバスの成績評価基準・方法について、より学生に分かりやすくかつ公正な成績評価を行うための具体的な検討が必要である。</p> <p>(取組状況)</p> <p>平成 21 年度シラバスより、「到達目標」と「成績評価基準」をリンクさせ、成績評価方法を数値化する方法に変更した。</p>
56	学生による授業評価の活用状況	<p>教育の成果・効果を客観的に検証するデータとして、授業アンケートの利用価値は非常に高い。今年度、学年が進行すると回収率が低下する傾向が見られたため、安定した回収率確保のため、「授業改善」という目的意識の共有を前提とした、学生への恒常的な授業アンケート参加への働きかけが必要である。</p> <p>(取組状況)</p> <p>授業評価アンケートを平成21年度後期からマークシート方式に改め、回収率は前期54.9%から75.1%に改善した。</p>
70	教育研究及びその成果の外部発信の状況とその適切性	<p>ホームページの内容・構成・更新時期の適切性・妥当性を把握する仕組みを構築し、適切な情報提供に努める必要がある。</p> <p>(取組状況)</p> <p>ホームページについて、「目的のページにたどり着きやすくする」「不足しているコンテンツを追加する」「更新頻度を上げる」ため、平成 21 年度に全面リニューアルを行い、閲覧者が使い易く、容易に更新できるものに変更した。</p>
98	教員組織の年齢構成の適切性	<p>完成年度以降に発生する定年退職等に伴う後任教員の採用に際しては、長期的な展望に立った人選や計画立案が必要である。</p> <p>(取組状況)</p> <p>大学院修士課程を設置するため、平成 22 年度に定年を迎える教員を対象に定年延長を行い、定年退職者の後任採用は平成 24 年度から開始する。そのため、平成 24 年度の教員採用に向け、現在、採用計画を検討している。</p>

No.	点検・評価項目	改善・改革に向けた方策
103	<p>実験・実習を伴う教育、外国語教育、情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性</p>	<p>将来的には、大学院の開設によって大学院修士課程・博士課程の学生を適切な教育的配慮の下、学部教育のティーチングアシスタントあるいは研究上のアシスタントとして教育研究に参加させ、教育研究の向上と学生の能力向上に寄与する方策を検討する必要がある。また、看護学部においては、看護実習等を充実させるためのインストラクター導入についても検討する必要がある。</p> <p>(取組状況)</p> <p>ティーチングアシスタントは、平成 21 年度から制度導入について検討を開始し、平成 22 年度から両学部において運用を開始している。看護学部におけるインストラクターについては、平成 20 年度から看護師資格を有する非常勤職員を配置し、運用している。</p>
125	<p>附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係</p>	<p>今後、大学院の開設とともに地域連携事業の業務拡大が予想されることから、附置研究所の設置理念や実体的活動基盤の確立、研究体制や産学連携を促進するリエゾン事務機能の充実が急務である。大学院の地域社会との連携事業を支援する意味からも、学内で十分に議論し、効果的に活動できるよう検討する。</p> <p>(取組状況)</p> <p>大学院設置に伴う地域連携研究センターのより一層の活動充実を図り、機動性を発揮するため、平成 22 年度からは理事長の兼務ではなく、別途センター長を任命した。</p> <p>また、リエゾン機能の充実に向けて、教員のシーズと企業等のニーズを確認した上で活性化を図る必要がある。本学には各教員のデータベースは経費面等の課題があり、まだないが、それを補完するものとしてホームページに各教員のプロフィールを掲載し、毎年更新し、最新情報を掲載するよう推奨している。</p>
128	<p>教員個室等の教員研究室の整備状況</p>	<p>今後、大学院（修士課程・博士課程）の開設に伴う教員数の増加が予想されるため、長期的な展望に立ち整備計画の立案が必要である。</p> <p>(取組状況)</p> <p>芸術の森キャンパスは従来から専任教員の数に応じた個人研究室を確保している（39 室）。桑園キャンパスは大学院棟の整備とあわせて個人研究室を整備し、専任教員の数に応じた個人研究室を確保した（42 室）。</p>
142	<p>社会へ開放される施設・設備の整備状況</p>	<p>学外者の大学施設利用を想定した規定、利用料金の徴収も含めた規定整備を検討する必要がある。</p> <p>(取組状況)</p> <p>平成 21 年度に学内施設の有料による貸出方針を決定し、平成 22 年度から有料貸出を行う。</p>

No.	点検・評価項目	改善・改革に向けた方策
152	<p>図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性</p>	<p>電子ジャーナル等の電子的資料は年々価格高騰し、図書館資料費に占める比率が高く、現状を維持していくことが困難になりつつある。図書館資料の充実を継続的に図っていくためには、大学全体の視点から図書予算について、検討していく必要がある。</p> <p>(取組状況)</p> <p>大学院の開設により、電子的資料の重要性はより高まるものと考えられるため、平成22年度の図書館関連予算全体では15%の縮減となったが、電子的資料に関する部分は前年度並みとした。しかし、今後の図書館資料充実のため、平成22年度の1年間をかけ、電子的資料のあり方について検討していくこととする。</p>
153	<p>図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性</p>	<p>芸術の森については、近々に収量能力の高い集密書架の設置等の対策を講じる必要がある。桑園については、書庫の確保が必要である。</p> <p>(取組状況)</p> <p>平成22年3月、芸術の森キャンパス図書館に書架（収納可能冊数約2,000冊増加）を増設した。</p> <p>桑園キャンパス図書館の書庫については、継続して検討を行っている。</p>
166	<p>企業等との共同研究、受託研究の規模・体制・推進の状況</p>	<p>本学の有する知的財産および研究資産を地域の企業に売り込むための体制作りが必須である。地域連携研究センターにおいて、リエゾン担当コーディネータの役割をより明確にすることで、リエゾン機能の充実を図る必要がある。</p> <p>(取組状況)</p> <p>リエゾン機能の充実を図るため、教員のシーズと企業等のニーズを確認した上で活性化を図る必要がある。本学には各教員のデータベースはまだないが、それを補完するものとしてホームページに各教員のプロフィールを掲載し、毎年更新するよう強く推奨している。</p>